

ヤマトホールディングス株式会社  
第143期中間期事業のご報告  
(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)  
をお届けします。

当社では、企業の社会的責任として環境保護に積極的  
に取り組んでおります。事業のご報告の発送方法につきま  
しても、封筒を使わずに宛名ラベルと開放部のテープの  
みで送付する環境に配慮した方式を導入しています。株  
主の皆様のご理解をいただきたくお願い申し上げます。

## 株 主 の 皆 様 へ



株主投資家の皆様におかれましては、ますます  
ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素から  
格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、企業収益の改善  
による設備投資の増加、雇用情勢の改善など景気  
は回復基調で推移いたしました。

しかしながら、トラック輸送業界におきましては、  
原油価格が引き続き高水準で推移したことに加え、  
民営化を目前に控えた日本郵政公社の影響も含めて  
同業者間の競争は激しく、厳しい経営環境が続き  
ました。

このような状況のもとでヤマトグループは、中期経営  
計画「ヤマトグループレボリューションプラン2007新  
価・革進3か年計画」の最終年度として、デリバリー  
事業の着実な拡大をはかりつつ、宅急便事業で  
培ったネットワークなどのグループ経営資源を活用して  
非デリバリー事業の成長を加速させる事業戦略を  
推進してまいりました。

この事業戦略に基づき、ヤマトグループと丸井グルー  
プは、両グループの経営資源を最大限に活用する

ために、5月21日に戦略的提携について合意し、9月  
よりヤマトホームコンビニエンス株式会社と丸井グルー  
プの株式会社ムービングの宅配事業を統合いたしま  
した。

当中間期における営業収益は5,842億3百万円と  
なり、前年同期に比べ4.7%増加いたしました。これ  
に対し、費用面におきましては、原油価格の高騰の  
影響があったものの、諸費用の削減に努めた結果、  
営業利益は267億7百万円となり、前年同期に比べ  
17.3%増加いたしました。これに営業外損益を含めた  
経常利益は280億2百万円となり、前年同期に比べ  
17.5%増加いたしました。また、中間純利益におきま  
しては、150億37百万円となり、前年同期に比べ  
65.1%増加いたしました。

下期におきましては、グループ連携の共同開発・  
共同販売によって営業収益の拡大をはかりながら、  
あらゆる業務領域において改革を進め、経営基盤を  
強化するとともに高効率経営の実現のためにグルー  
プ丸となって取り組んでまいります。また、平成20  
年1月を予定として、ヤマトホームコンビニエンス株式  
会社とホームコンビニエンス事業の8社を合併し、株式  
会社ムービングの宅配事業の統合による効果も含め  
て、経営の効率化を加速させてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層の  
ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長

瀬戸 薫

## CONTENTS

株主の皆様へ	1	中間連結財務諸表の概要	7
未来へ、豊かな「環境」を届けていくために	2	中間個別財務諸表の概要	9
事業概況(連結)	5	株式の状況/会社概要/株主メモ	10